

平成25年11月16日（土）の「仏教女性の集い」

錦秋の京都は紅葉に美しく彩られた寺社へ、夜はライトアップとこの時期は、道も乗り物も人、人、人で賑わっています。知恩院近くの『吉水尼僧庵前』の街路樹も赤く染まっています。「仏教女性の集い」が開催されたこの日は日差し暖かな一日でした。



御法話は、法然上人御法語後篇 第24「滅罪増上縁」第25「護念増上縁」今回は関連性があるのでと二篇を続けてご法話をされました。

—参加者感想—

五逆罪(最も重い罪)を犯した者でも、「観念法門」で説かれている滅罪・護念・見仏・摂生・証生、五種増上縁によって必ず往生が出来ると。

三心(往生を願う心)とは至誠心・深心・回向発願心

三つの心を持って往生しなさい。まことの心があれば、清浄土(浄土)に行ける。まことの心があれば深心にも回向発願心にも繋がる。一声の念仏によって阿弥陀様はお救い下さる。平生より念仏を申しなさい。平生から真の心を持って往生しなさい。それ程に阿弥陀様は見守り続けて下さるのに自分自身の行いはいかなるものか？縁を頂き、あらゆるものから見守られ、生かされている身を大切になさい。といつもながらの力強いお言葉でご指導下さいました。

参加者 K. O



お菓子は亥の子餅

亥の子餅(いのこもち)とは、亥の子に形取られた餅。

亥猪餅(げんちょもち)。亥の子(旧暦10月(亥の月)の亥の日)の亥の刻(午後10時ごろ)に食べられます。

亥は陰陽五行説では水の性に当たり、火災を逃れると言い伝えがあります。亥の月の亥の日を選んで、炬燵や暖房機を出すという風習が今も残っております。

お茶の世界でも、この日を炉開きの日としてお菓子に「亥の子餅」が出されます。

座談会の席では、

「自分から人を傷つける気持ちは無いけれど、他人によって傷つけられた時に、あんなことをしていたらきっと罰が当たるわ・・・と相手に対して思う気持ちがあります」と言った言葉に対して先生は

「阿弥陀様から自分自身を遠ざけてしまっただけではいけません」と「えっ！私ですか？悔しい思いをしている私ですか？」

先生は、法然上人のお歌『月影のいたらぬ里はなけれどもながむる人の心にぞすむ』を例えて、「月の光を見ずに、自分の影ばかり追っただけではいけませんよ。年を取れば分かってくこともあります。年を取ると言う事は決してマイナスではありません」ご法話の続きのように話して下さいました。

いつも阿弥陀様と過ごされている近藤先生のお姿を拝見して、自分の未熟さに恥ずかしい思いと同時に、まっすぐに阿弥陀様と向き会えるような生活をしていかなければいけないとより強く思った一日でした。

今回の参加者の中に、「『知恩院前』のバス停前にある法衣店のウィンドウに『仏教女性の集い』の案内が出ていたのでそれを見て来ました。仏教のお話は難しいですが、少し分かったような気がしました」と感想を述べられていました。

また、クリスチャンの家庭で育てられた方は「教えに通じる所があってギャップを感じる事はありません」と宗教・宗派を越えた話を聞かせて頂きました。

次回の「仏教女性の集い」は12月21日です。

今年最後の「仏教女性の集い」になります。

2013年、実りの多い一年を過ごす事が出来ました。2014年も迷いを離れた、邪念の無い一年を過ごしていければと思っております。

皆様方と共にお念仏を喜んだ生活をして行きたく思います。この機会により多くの方々とご縁をいただければと思っております。宜しくお願い致します。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時

参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。

条件は女性であることだけです。

多数のご参加お待ちしております。

市バス[知恩院前]下車、東へ徒歩150m

『吉水尼僧庵』（旧尼僧道場跡）で開催致しております。

「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載致しております。

<http://jodo.or.jp/yoshimizu/tudoi.html>

問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで